



Thinking ECO

スウェーデンハウスの環境への取り組み



2019年10月発行

社員一人ひとりが ECOを考え、行動する。

Thinking ECOとは、環境問題に対する「改善活動」の基本スタンスを表現するものです。人と環境にやさしいECO、Earth Conscious(地球を大切にしようという意識と行動)について、社員一人ひとりが自分でできること、やるべきことを常に考え、行動すること。一人の小さな改善活動が組織に広がり、やがて地球環境にも広がっていくと信じています。

今後もスウェーデンハウス環境方針に基づき、企業としての環境課題への責任を果たし、地域と地球全体の環境保全に取り組んでまいります。

1 企業活動のECO

クリーンエネルギーの効果的な利用
資源の節約、廃棄物の削減
省エネルギー・快適性能の追求
環境負荷の小さな住宅スウェーデンハウスの普及

2 お客様の暮らしのECO

お住まいのメンテナンスサポートシステム「ヒューズドクトル50」

- 訪問によるメンテナンスアドバイスやリフォーム提案「50年間無料定期検診システム」
- Webサービスによるメンテナンス情報の提供「オーナー様専用サイト God Dag(グッダー)」
- オーナー様参加型イベントの開催「メンテナンス教室」

省エネ性能と快適さを数値で表示

- 全棟高性能保証表示システム「CQ24+U」

省エネルギー生活の提案・情報発信

- 情報誌『The Sweden House』発行

3 地球環境のECO

環境と共生する街づくり事業

- 北海道スウェーデンヒルズ
- スウェディッシュガーデンひばりが丘
- 茨城県たつのこ邑
- スウェディッシュガーデン印西牧の原 など

森林管理から考える家づくり

- 合法に伐採された木材利用
- 森林管理によって生態系が守られている地域からの木材利用

文化支援活動

- スウェーデンとの文化交流

Thinking ECO





スウェーデンハウス事業理念

スウェーデンのスタンダードによる確かな本物の住まいを
美しい日本の文化と風土に調和させ
より豊かなライフスタイルを提案し
品質第一の施工でお届けすることで
資産として価値の持続する家づくりを実践する



スウェーデンハウス環境方針

スウェーデンハウスは、環境先進国スウェーデンの住思想を背景に、
天然木の香りあふれる家づくり、省エネ・快適性能の追求、
住宅の機能と価値の長寿命化、
日本の風土への調和と融合を推進します。

これにより生活消費エネルギーの極小化、
クリーンエネルギーの効果的な利用、
CO₂の長期固定化、資源の節約、廃棄物の削減と再利用をはかり、
生物多様性を尊重し、地域と地球全体の環境保全に貢献します。

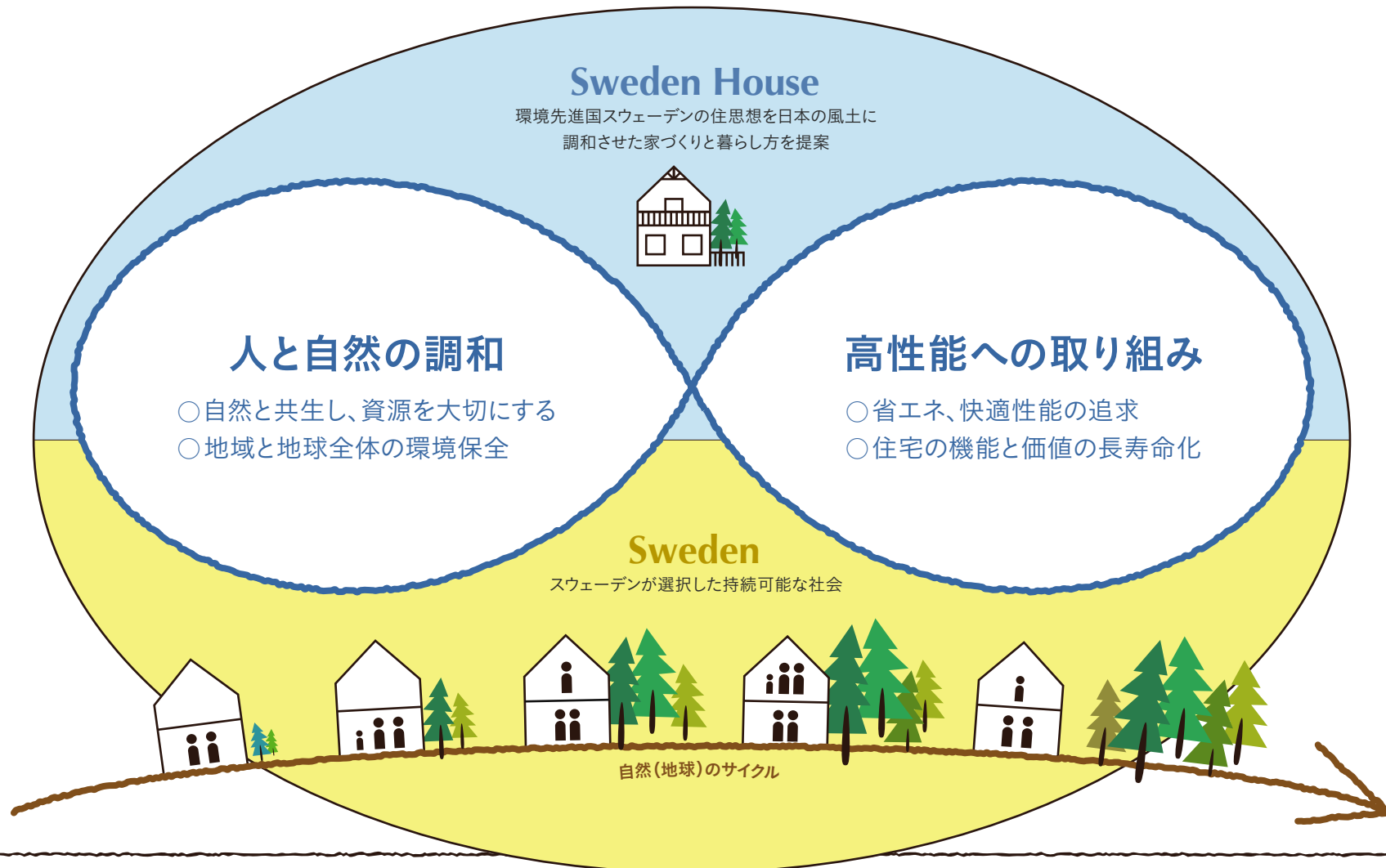
行動指針

1. 技術の進歩や環境の変化に対応し、常により環境負荷の小さな家を建てられるように、継続して改善を行っていきます。
2. 環境関連法規は最低限の基準と考え遵守するとともに、より厳しい自主基準を課して環境保全に努めていきます。
3. 環境負荷の小さな家を提供するにあたり、企業活動のあらゆる面でのムダをなくし、資源の有効活用をはかります。
4. 持続可能な森林経営を支援し、生物の多様性を守るため、木材調達方針を策定します。
5. 全社員に対する環境教育を継続して行い環境意識を高めるとともに、協力施工店等に対しても、当社環境方針への理解と協力を要請します。



スウェーデンハウスは、人も地球も快適にする。

地球環境への配慮は、人の健康や安全と両立させたい考え、人へのやさしさ、地球へのやさしさ、その二つが重なるところに私たちが目指す「快適」があります。



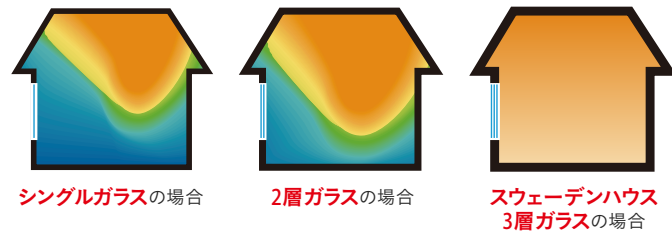
CO₂を削減している スウェーデンハウスの窓

窓からの熱の流入・流出を大幅に低減

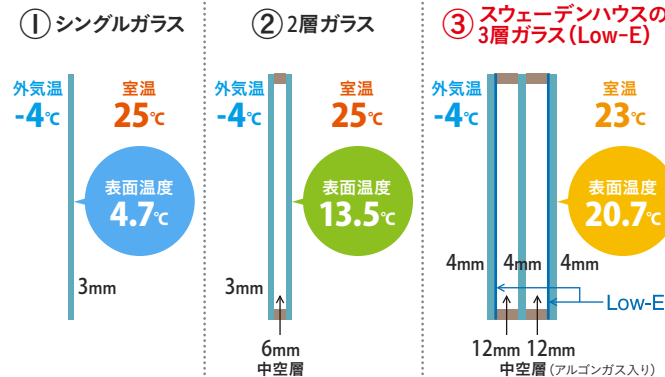
スウェーデンハウスでは創業当初から木製サッシ3層ガラス窓を全棟で標準装備しています。高い断熱性能を確保するためには、建物の躯体だけでなく窓、玄関ドアなどの開口部の断熱化が必須となるためです。特に木製サッシにこだわっている理由は、木はアルミに比べて約1700倍の断熱性能があり、さらに湿度調整機能が備わっているため、高温多湿な日本の気候に適した素材だからです。

そして3層ガラスによってさらに断熱性能を高めています。複層ガラスは中空層（アルゴンガス入り）が優れた断熱材となります。一般的な複層ガラス（2層のガラス）の中空層6mmに対して、スウェーデンハウスでは12mmの中空層を設け、3層ガラスに挟まれた中空層は12mm×2=24mmにもなります。ガラス自体も4mm（2層ガラスは3mm）と厚いガラスを採用。室外・室内側にはLow-Eガラスを標準装備しているので、夏の日射熱の流入を半減させると同時に、有害な紫外線も約78%もカットします。

【外気温度-5℃の場合の温度分布（室温は暖房で20℃に設定）】



シングルガラス・2層ガラスの住まいは室内に大きな温度差ができてしまいますが、スウェーデンハウスは室内温度が均一。



- 表面温度はガラスの熱貫流率より計算で求めたガラス中央部の温度で、ガラスの外周の温度は異なります。
- スウェーデンハウスは室温23℃でも十分快適なので、23℃に設定。

1棟でブナの木33本分のCO₂を削減

スウェーデンハウスの木製サッシ3層ガラス窓とアルミサッシシングルガラスを採用した窓では、どれだけ断熱性能が違うのでしょうか？窓の違いによるCO₂削減量を試算してみました。スウェーデンハウス1棟につき、窓の断熱性能だけに注目して比較すると、CO₂削減量は1年間にブナの木が吸収するCO₂量約33本分に相当します。これまで全国に建設されているスウェーデンハウス（約34,307棟/2019年3月末現在）に換算すると約113万本分になります。



スウェーデンハウス1棟あたり
CO₂削減量は
約370kg-CO₂/年

全国のスウェーデンハウスの
CO₂削減量は
約12,746t-CO₂/年

※算出根拠

- 断熱仕様・間取りが同じスウェーデンハウスで、木製サッシ3層Low-Eガラスの場合とアルミサッシシングルガラスの場合のそれぞれの冷暖房負荷を算出し、標準的なエアコンを使用している場合でのエネルギー消費量の差からCO₂の削減量を求めている。
- CO₂排出係数は2017年度環境省公表の電気事業者別CO₂排出係数実績（東京電力）による。
- ブナの本数は、CO₂削減量をブナの木1本が1年間に吸収するCO₂量で割り、算出したもの。ブナの木が1年間に吸収するCO₂量=11kg（独立行政法人 森林総合研究所試算による）

スウェーデンハウスの家づくり③



普通に暮らすだけで
快適と省エネの両立が可能

約40%も少ないエネルギーで快適生活

近年、冷暖房機器等の省エネ性能は格段に高くなっていますが、建物の断熱性能が低いと、最新機器を採用しても使うエネルギーはたくさん必要になります。スウェーデンハウスは①家全体を包み込む分厚い断熱材、②木製サッシ3層ガラス窓、③高气密施工により、質の高い省エネ性能を標準仕様としています。外気の暑さ、寒さの影響を防ぎ、しかも家中の温度変化が少ない「快適に省エネ生活ができる家」を実現しています。

スウェーデンハウスは一般住宅の一次エネルギー消費量※1を100%とした場合、約40%も少ないエネルギーで快適に生活できます(図参照)。※1 建物全体で使用するエネルギー量



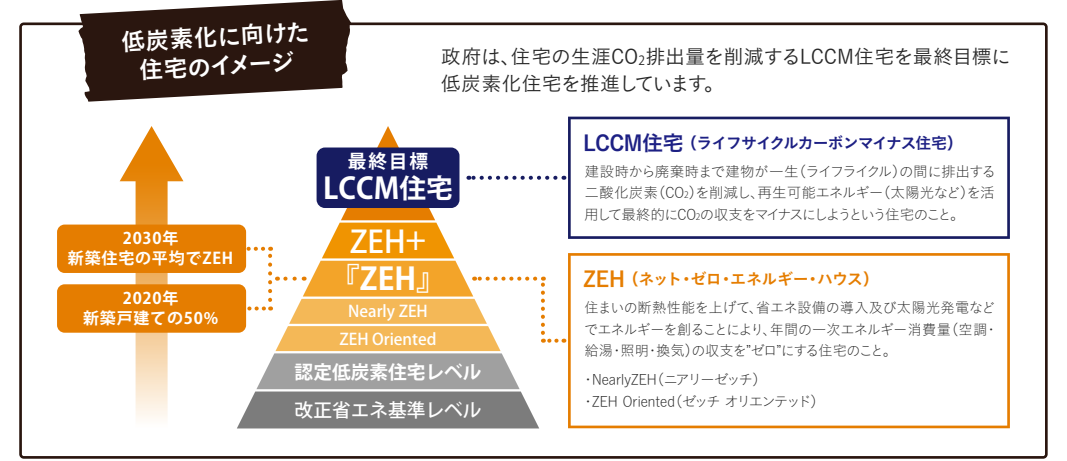
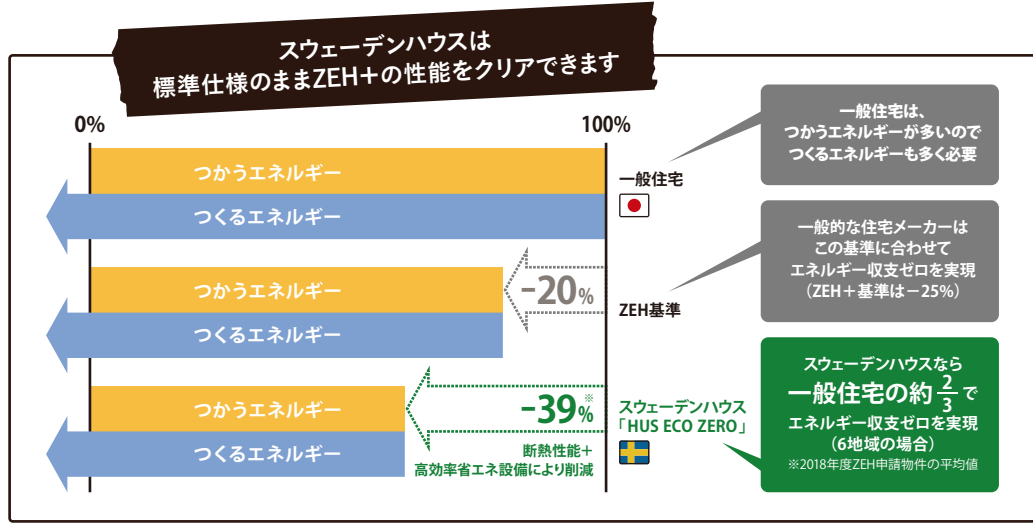
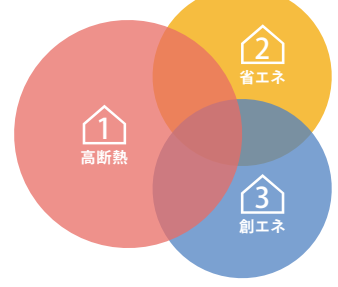
ゼロエネルギー住宅にも一歩先の対応

国は低炭素社会を目指し、住宅分野ではエネルギー消費量やCO₂(二酸化炭素)排出量の削減を目指し住宅の省エネ・省CO₂化を推進しています。その目標となっているのが『ZEH』(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)やLCCM住宅(ライフサイクルカーボンマイナス住宅)です(図参照)。

『ZEH』を実現するためには、①高断熱外皮、②高効率省エネ設備、③太陽光発電等の創エネ設備の3要素が必要です。高气密・高断熱のスウェーデンハウスは、ZEHの断熱基準(UA値0.60=4~7地域)を標準仕様(UA値0.38=2018年度全国平均)で大幅にクリアしているので、使うエネルギーを大幅に削減でき、少ない太陽光発電で年間のエネルギー収支をゼロにすることができます。

国が最終目標としているLCCM住宅は、住宅の建設時から廃棄時まで省CO₂に取り組み、生涯でのCO₂収支をマイナスにする住宅のことです。スウェーデンハウスは建物自体に高い断熱性能を有しているため、LCCM住宅においても高効率の省エネ設備と太陽光発電システムを組み合わせることでLCCM住宅認定の取得も可能です。スウェーデンハウスは設備に頼らず家そのものの基本性能が重要だという住思想があり、1984年の創業以来、ワングレード・ハイスpekを標準仕様としているため、新築住宅だけでなく、すでにお住まいのスウェーデンハウスについても、同様にエネルギー収支ゼロにすることが実現可能です。

【3つの要素を合わせてエネルギー収支をゼロ】



全棟高性能保証 表示システムで1棟ごとに 性能を数値で確認



住まいの快適性能を明確にする

スウェーデンハウスは日本の住宅メーカーに先駆けて、1999年に「全棟高性能保証表示システム」をスタート。健康で快適な暮らしのために、一棟一棟、断熱性能を示すQ値を計算、気密性能を示すC値を測定し、その数値を表示してお引渡ししてきました。

2013年7月からは、改正省エネルギー法の施行に先立ち、新たに断熱性能を示すU値も加えて、その性能を表示しています。



C値、Q値、U値の表示シート

相当隙間面積 全棟平均

C値 = 0.63cm²/m²

※2018年度の平均値。値が小さいほど高气密

C値は家の気密性能を示す数値。スウェーデンハウスでは省エネルギー効率を証明する大切な指標と考え、建物の完成時にすべての住宅で測定し、表示しています。

スウェーデンハウス
C値=0.62の場合
約92cm²(名刺2枚分)

C値=2.0の場合
約296cm²(ハガキ2枚分)

C値=5.0の場合
約740cm²(ハガキ5枚分)

実質延床面積148m²(約45坪)の場合

●C値の地域区分別・基準値

C値 (cm ² /m ²)	
次世代省エネルギー基準 (平成11年基準)	
I地域	2.0
II地域	
III地域	5.0
IV地域	
V地域	
VI地域	

熱損失係数 全棟平均

Q値 = 1.20w/m²・K

※2018年度の平均値。値が小さいほど高断熱

Q値は外壁・天井・床等からの熱損失量と換気による熱損失量を合計し延床面積で割った値。建物の形状などによる熱負荷も踏まえた断熱性を示し、実際に暮らした場合の快適さと省エネ性能を含めた断熱性能の指標となります。

屋根

換気

外壁

窓

床

Q値 = $\frac{\text{建物から逃げる総熱量}}{\text{延床面積}}$

●Q値の地域区分別・基準値

Q値 (W/m ² ・K)	
次世代省エネルギー基準 (平成11年基準)	
I地域	1.6
II地域	1.9
III地域	2.4
IV地域	2.7
V地域	3.7
VI地域	3.7

気密は断熱と計画換気の要です

スウェーデンハウスは気密性能(C値)、断熱性能(Q値・U値)、計画換気の3つが高いレベルで備わってこそ、快適な住まいが実現すると考えています。どんなにしっかりと断熱しても気密性が低ければ、隙間から空気が入り出してしまい快適な温度が保てません。また、隙間があると計画的に空気の流れをコントロールできないため、換気システムによって空気の質を良好に維持することもできません。「気密性能」は私たちにとって妥協できない大切なものであるからこそ、お引渡し時に全棟でC値測定を行っています。

外皮平均熱貫流率 全棟平均

U値 = 0.38w/m²・K

※2018年度の平均値。値が小さいほど高断熱

U値は床・外壁・窓・屋根など外部と接する部分(外皮)がどれだけ熱を通すかを示す数値。換気による影響は含まれず、純粋に外皮の各部位の熱を通す度合いを算出し、その平均値を示します。

屋根

外壁

窓

床

U値 = $\frac{\text{建物から逃げる総熱量}}{\text{外皮面積}}$

●U値の地域区分別・基準値

U値 (W/m ² ・K)	
建築物省エネルギー基準 (平成28年基準)	
1地域	0.46
2地域	
3地域	0.56
4地域	0.75
5地域	0.87
6地域	
7地域	-
8地域	



資産価値を維持するためのシステム 「ヒューズドクトル50」

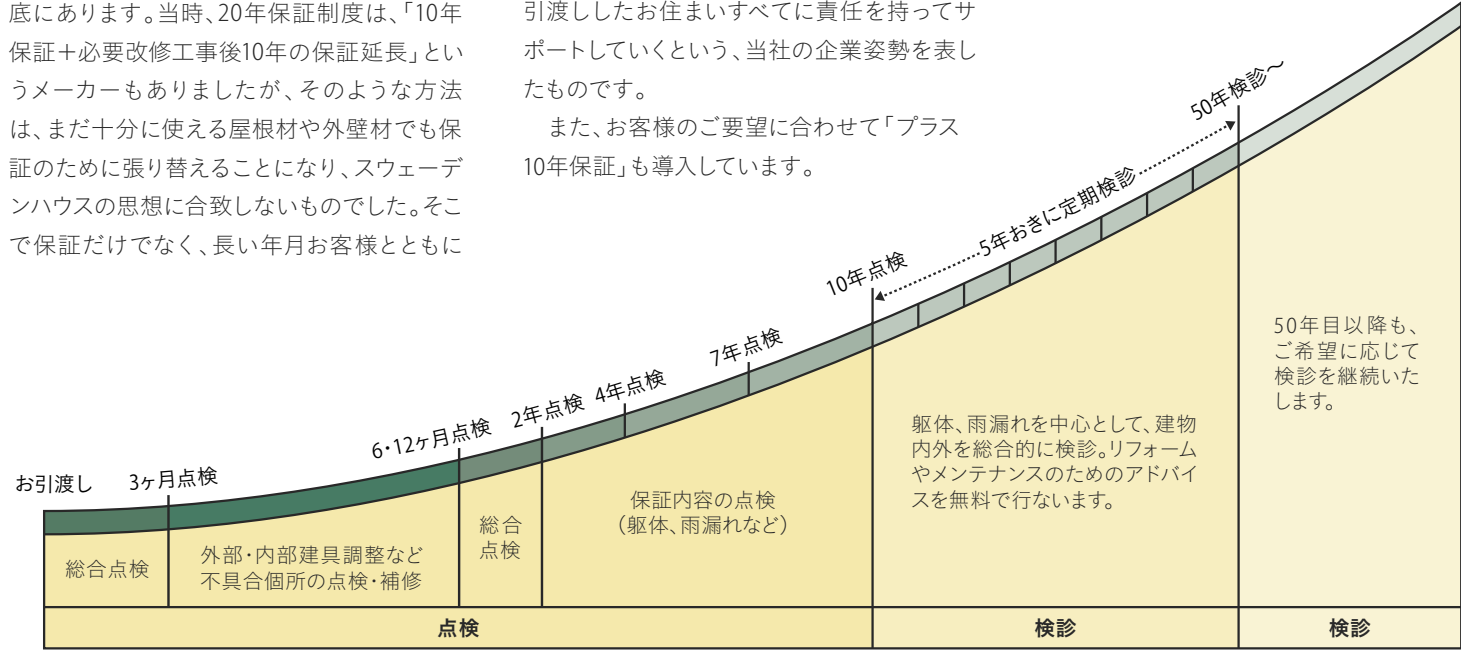


長く快適に暮らすためのメンテナンス

スウェーデンハウスは業界に先駆けて2000年8月より、50年間無料定期検診システム「ヒューズドクトル50」をスタートさせました。このシステムには「よいものを長く大切に使い続ける」というスウェーデンハウスの思想が根底にあります。当時、20年保証制度は、「10年保証+必要改修工事後10年の保証延長」というメーカーもありましたが、そのような方法は、まだ十分に使える屋根材や外壁材でも保証のために張り替えることになり、スウェーデンハウスの思想に合致しないものでした。そこで保証だけでなく、長い年月お客様とともに

住まいを大事に長持ちさせるという発想から「ヒューズドクトル50」が生まれました。画期的だったのは、制度スタート時の建物だけでなく過去にさかのぼって建築されたお住まいすべてを対象としたことです。これはお引渡ししたお住まいすべてに責任を持ってサポートしていくという、当社の企業姿勢を表したものです。また、お客様のご要望に合わせて「プラス10年保証」も導入しています。

●オーナー様専用サイト「God Dag(グッダー)」
メンテナンス情報等をインターネットで確認できるオーナー様専用サイト。定期点検・検診記録をはじめオーナー様のセルフメンテナンス記録なども登録でき、情報を共有化します。また、オーナー様自身でメンテナンスができるように、web上でメンテナンス教室等を開催しています。



標準仕様で長期優良住宅に対応

一般的な日本の住宅は約30年という短い周期で建て替えられていますが、国は長く快適に暮らせる住宅の普及・促進を図っています。2009年に「長期優良住宅の普及の促進に関する法律」が施行され、質の良い住宅を優遇することで普及を促進し、社会的資産としての循環利用や建て替え時の環境負荷を低減することを目指しています。一定の基準をクリアした住宅は、長期優良住宅と認定され、税制の優遇を受けることができます。スウェーデンハウスは標準仕様で長期優良住宅の認定を受けることが可能です。

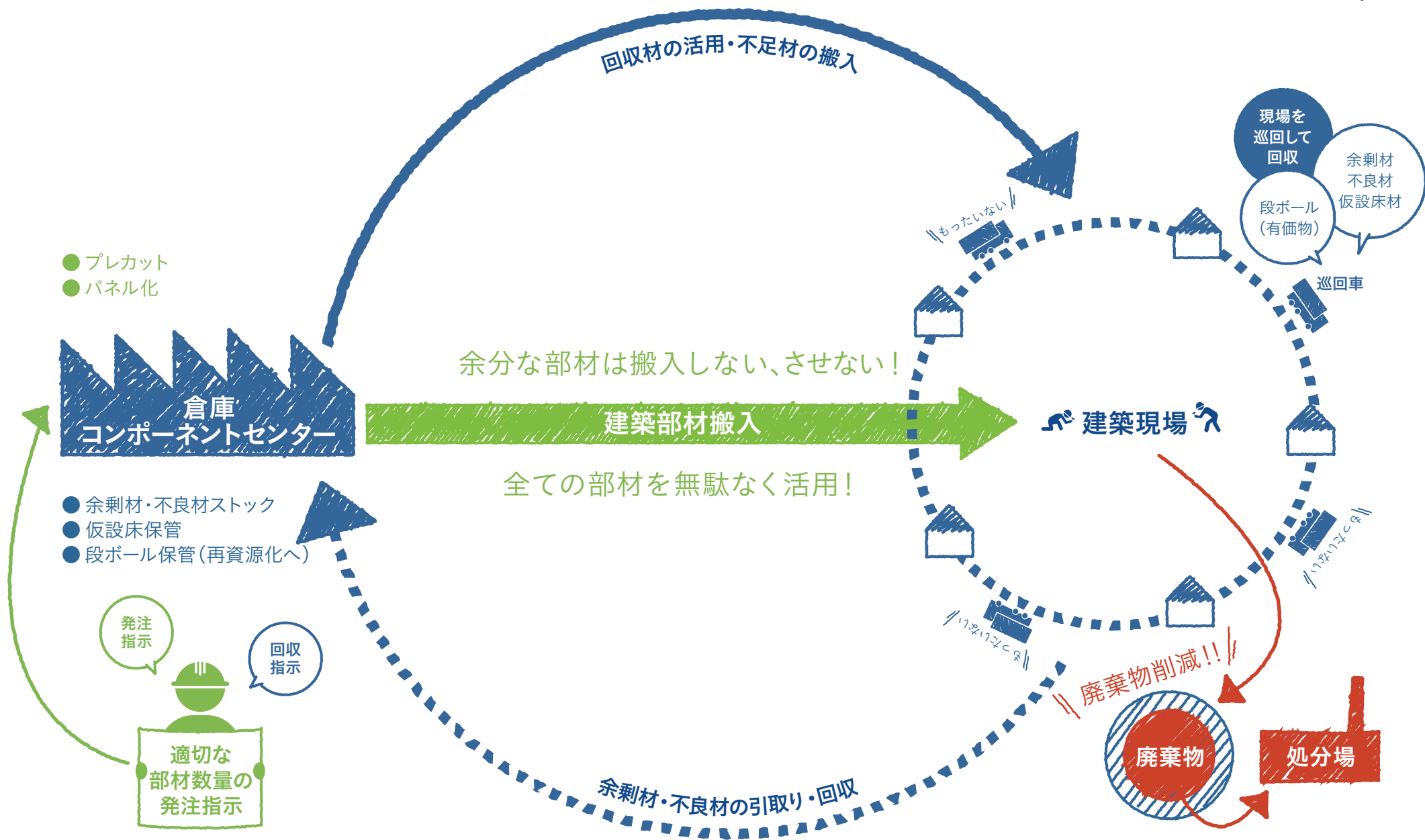
【長期優良住宅への対応】

認定内容	基準	スウェーデンハウスの等級
耐震性 極めて稀に(数百年に一度程度)発生する地震に対し、継続利用のための改修の容易化を図るため、損傷のレベルの低減を図ること。	耐震等級2以上	① ② ③
劣化対策 数世代にわたり住宅の構造躯体が使用できること。	劣化対策等級3	① ② ③
維持管理・更新の容易性 構造躯体に比べて耐用年数が短い内装・設備について、維持管理(清掃・点検・補修・更新)を容易に行うために必要な措置が講じられていること。	維持管理対策等級(専用配管)等級3	① ② ③
省エネルギー性 必要な断熱性能等の省エネルギー性能が確保されていること。	断熱等性能等級4	① ② ③ ④

※プランにより等級が異なります。長期優良住宅に対応するには、その他設計上必要な基準があります。※認定長期優良住宅の維持保全の状況について、所轄行政庁により、報告を求められることがあります。



資源循環による廃棄物削減①



資源循環による廃棄物削減②

倉庫 コンポーネントセンター

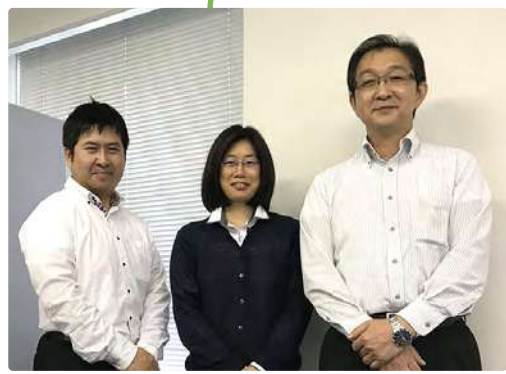
回収材の活用・不足材の搬入

建築現場への部材搬入

倉庫・コンポーネントセンターでは、スウェーデンから運ばれてきた部材をストックしている他、現場での端材の発生を抑制するため材料のプレカットやパネル化(床・壁)などを行っている。



発注指示・回収指示



VOICE ①

管理部 **新出和伸さん(右)**
田村綾子さん(中央)
市川智生さん(左)

私たちの仕事は「余分な部材は搬入しない、させない!」を合言葉に、建築現場に無駄のない部材搬入を指示することです。搬入する予備材を極力削減して廃棄物を減らし、限りある資源を大切に使う工夫をすることで、廃棄物の削減に取り組んでいます。

資源循環による廃棄物削減③

建築現場



建築現場には工事の進捗状況に合わせて必要な部材が搬入される。廃棄物削減の取り組みをさらに強化するため、現場で余った部材を廃棄物にしないように部材発注基準を厳しく見直し、余剰材は巡回車によって回収する。



//もったいない//
余剰材・不良材の引取り回収
余剰材や不良材の仕分け作業。現場と連携をとりながら行っている(写真左)。



回収材の運搬
搬入時や巡回時に回収された部材は、倉庫・コンポーネントセンターに運ばれる。



//もったいない//
仮設床材の回収
吹き抜けのあるプランの場合、2階木工事の際に仮設床が設置される(写真左)。工事終了後は取り外されて廃棄物として処理していたが、仮設床材を回収して活用する試みがスタートした。

倉庫 コンポーネントセンター



**大切な資源である
木材の廃棄物を削減!!**



VOICE ②

千葉支店 工事グループ 鈴木健之さん(左)
佐々木啓祐さん(右)

これまで廃棄物となっていた部材(とくに木材)をきめ細かく仕分け、現場を巡回する運搬車で回収します。部材発注担当者との現場の連絡を密にして、効率よく回収し廃棄物削減を心掛けています。産業廃棄物の量を減らすことはコスト削減にもつながります。

私たちのThinking ECO — 工事グループ①



「5S運動」で 品質管理・廃棄物削減を推進

スウェーデンハウスの工事現場では「5S運動」を実行しています。5Sを徹底することで、作業の効率化、品質管理、廃棄物の削減につながります。また、整理整頓を習慣づけ、常に現場の美化を心掛けることは、お客様の信頼に応えるためにも大切な仕事です。

5S運動

- S**eiri 整理：いらないものを捨てる
- S**eiton 整頓：誰でも使いやすいように並べる
- S**eiso 清掃：現場を常にきれいにする
- S**eiketsu 清潔：整理・整頓・清掃した状況を維持する
- S**itsuke 躰：決められたことを守る習慣づけ



工事現場で作業をするすべての社員や協力業者に「安全衛生手帳」が配布され、安全な作業のためのルールをはじめ、「5S運動」についても周知徹底が図られている。



← 工事現場の玄関ドアには、環境方針、建設副産物の分別一覧を掲示し、環境にやさしい現場づくりの意識を高めている(千葉支店)。

↓ 建設廃棄物保管場所として「産廃ボックス」を設置。ビニールで覆われているので廃棄物を濡らさず、また現場の美化の観点から採用している。パネル(写真右上)に廃棄物の種類を明記(関西支店)。



ごみの分別は透明のビニール袋にコンパクトにまとめられる。色分けして表示しているので分かりやすい(東北支店)。

建設廃棄物保管場所	
廃棄物の種類	・ 木くず ・ 紙くず ・ 金属くず ・ 廃プラスチック類(石膏含有廃棄物を含む) ・ 廃石膏ボード ・ ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず(石膏含有廃棄物廃棄物を含む)
数量	3m ³
管理者	名 称 スウェーデンハウス株式会社 〒980-0801 宮城県仙台市青葉区大森1-1-1
連絡先	082-545-1385
高さ	1m



処理施設・処分場の視察・調査を実施

当社では建築現場から排出される産業廃棄物が処理業者により、適切に分類・処理されているか、また、最終処分場まで確実に送られているか確認するため、各拠点の工事担当者が廃棄物の調査及び産業廃棄物処理業者の視察を実施しています。視察時には下記の内容がチェックされます。

- ☑ 廃棄物処理業者の許可取得状況
- ☑ 許可項目の分類・処理及びリサイクルへの転換状況
- ☑ 施設の状況及び周辺地域への配慮
- ☑ 最終処分場（伝票や施設を実際に確認）



中間処理施設とリサイクルセンターを視察し、社員教育を実施。産業廃棄物を削減するためには、さらにプレカット率を高めること、現場職人への指導と分別・袋詰めを徹底することを確認(千葉支店)。



石膏ボードのリサイクル施設を視察。石膏と表面紙を分離し石膏は再利用、紙は製紙業者で再利用される。写真は分離機械で石膏が90%以上落とされて分離された紙。触っても石膏が手につかない(東北支店)。



中間処理施設と最終処分場を視察。ビル等を解体したコンクリート塊も破碎して再生砕石(写真左上)として、木材はチップ(写真右上)としてリサイクルされる。総処理量25万m³の安定型最終処分場(写真左)は、最終処分として年間で約1万m³が排出されるため、25年で満杯になる。安定型処分場だが構造としては管理型処分場と同じく環境に配慮している(九州支店)。



木材調達方針

私たちは持続可能な森林経営を支援し、生物の多様性を守るため、以下の木材調達方針を新たに掲げ木材の調達に取り組めます。

1. 合法に伐採された木材であること。
2. 森林の伐採量が成長量を超えない計画的な伐採によって産出された木材であること。
3. 合法的な森林管理によって生態系が守られている地域から産出された木材であること。
4. 生態系を恒久的に破壊するような、大規模な伐採によって産出された木材では無いこと。
5. 生物多様性を尊重した施業方法により更新された木材であること。

写真はスウェーデン・ダーラナ地方にある、現地工場トーキグヒュースAB。



環境保護の観点から
厳しく管理された
北欧の木材を使用

木材調達方針の策定と取り組み

スウェーデンハウスは2013年10月に木材調達方針を策定しました。

私たちは森林生態系の保護と持続的な森林資源の利用の両立を実現することを目指し、「責任ある木材調達」を行なっています。

【具体的な推進策】

コストバランスを崩さず安定的に木材を調達する事を前提にして以下の点を推進します。

- 森林認証材の購入を段階的に増やし、輸入構造材の100%を認証材とすることを目指します。
- サプライヤーと協力し、木材製品が合法的に伐採されているものに由来していることを確認します。

現地工場トーモクヒュースAB

スウェーデンは持続可能な森林管理を実施しているため、立木量(りゅうぼくりょう)ストックが年々増加しています。スウェーデンハウスの現地工場トーモクヒュースAB*があるダーラナ地方は、良質な森林資源に恵まれています。木目が詰まった、極めて丈夫で品質が安定した木材によって、スウェーデンハウスの木質壁パネルや窓が生産されています。

現地工場では日本の文化・気候風土を理解したうえで、きめ細かい品質管理・品質改良を行っており、さらに木質壁パネルの断熱材の充填も現地工場ですべて加工されることでスウェーデンハウスの高性能を実現しています。

※ AB=株式会社



豊かな森林が広がるスウェーデン・ダーラナ地方。



トーモクヒュースABの工場棟。



現地工場では厳しい検査を実施し、精度の高い部材を供給。



 Sweden Hills

自然と共生する
緑豊かな生活環境を保つ街づくり

先進的なコンセプトで計画された 資産価値のある街づくり

資産として価値のある家づくりを事業理念とする当社は、個人の住宅だけでなく自然と共生した街づくりを計画し、北海道石狩郡当別町にスウェーデンヒルズを開発しました。スウェーデンヒルズは35年前から開発が始まり、北欧の街づくりをお手本とした緑豊かな生活環境に、約450棟のスウェーデンハウスが建ち並んでいます。

開発当時、単に宅地開発するのではなく「スウェーデン住宅地として、豊かな自然環境と調和した街」を計画し、その街づくりのコンセプトは先進的なものでした。住宅街区面積約150ha(約45万坪)のうち、3分の2にあたる100ha(約30万坪)を森林として自然のまま残し、住宅エリアは丘陵地の斜面をいかして、それぞれ異なる地形・景観を楽しめるようにゾーニングされています。

電柱のない美しい街並みを実現

スウェーデンヒルズには電柱が一本もありません。電線はすべて地下に埋設することで、美しい街並みを実現しています。30年前、このように「街の景観」を意識した開発は画期的なものでした。地下埋設は景観面だけでなく地震、大雪などの災害時に電線が切れる心配もなく、ライフラインが確保されるメリットもあります。

無電柱化とともに幹線道路や散策路に樹木を植えて緑化に努めるなど、当社だけでなく、スウェーデンヒルズに住む人々の高い意識によって、年月を経るほどに成熟していく美しい景観を実現しています。

無電柱化推進の活動が普及

日本では戦後、急増する電力・通信需要に対応するため、多くの電柱が建てられました。約3600万本の電柱があり、毎年7万本ペースで増え続けているそうです。東京都では2020年までに環状七号線内側エリアで無電柱化を推進する方針を掲げています。その大きな目的は3つ。

- ① 都市防災機能の強化
- ② 安全で快適な歩行空間の確保
- ③ 良好な都市景観の創出

特に2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、首都東京にふさわしい景観を形成するために無電柱化は必要不可欠です。

30年前、日本ではほとんど電柱が増加していた時代に、スウェーデンヒルズは景観を重視した「無電柱化」を街づくりのコンセプトに取り入れ、21世紀の街づくりのモデルとして高い評価を受けました。



安全で静かな環境をつくる道路計画として、街区道路の先端をループ状にする「クルドサク方式」を採用。



長い年月を視野においた 住民が守り育てていく「建築協定」

住むほどに快適で、その素晴らしさが増す生活環境を維持していくため、スウェーデンヒルズには「建築協定」が設けられています。

例えば、宅地の境界から一定の距離をおいて家を建築すること、屋根及び外壁は一定の基本色から選択すること、境界の柵は環境を損なわないように生垣または樹木とすること等が決められています。建築協定は常に住民みんなで考え守り育てられ、50年、100年といった長い時間を視野におき、美しい環境を保つ街づくりが実現されています。

こうした取り組みによってスウェーデンヒルズ建築協定委員会は、2006年、一般社団法人住宅生産振興財団が主催する「住まいまちなみコンクール」で「第2回住まいまちなみ賞」を受賞しました。

街づくりに日瑞の文化交流施設を整備

スウェーデンヒルズ開発計画の中には、日本とスウェーデンの文化交流を目的とした施設「財団法人※スウェーデン交流センター」を設立することが盛り込まれていました(1986年8月開館)。

1987年10月には、当別町とスウェーデンのダーラナ県レクスンド市との姉妹都市提携が実現しました。同時に当別・レクスンド都市交流協会が設立され、以来、教育・文化・スポーツなど多岐にわたって活発な交流が続けられています。

※現・一般財団法人

スウェーデンヒルズの夏至祭

スウェーデンヒルズでは毎年、スウェーデンの伝統行事である夏至祭(6月)が盛大に行われます。

夏至祭は当別町の夏を告げる行事として定着し、町民だけでなく日本全国からもたくさんの方が参加されます。スウェーデンの民族衣装に身を包み、女の子は頭に花飾りをつけて、音楽を奏でながら街を行進します。祭りのクライマックスにはマイストング(夏至柱)を大きな掛け声とともに立ち上げます。



レクサンド市・当別町姉妹都市提携30周年記念イベント

1987年から始まった当別町とスウェーデン・レクサンド市との姉妹都市提携が30周年を迎えました。2017年10月26日から5日間、レクサンド市からウルリカ・リリエベリィ市長をはじめとした60名を超える訪問団が当別町に滞在し、記念式典やさまざまな文化・スポーツ交流が行われました。

10月28日、西当別コミュニティセンターで開催された記念式

典では、北海道知事、駐日スウェーデン大使が来賓として出席し、宮司正毅町長、ウルリカ・リリエベリィ市長から30年の歴史における国際姉妹都市交流功労者に感謝状が授与されました。また、9月にオープンした「北欧の風 道の駅とうべつ」では、夏至祭のシンボル「マイストング」を交流の証として立ち上げました。



記念式典でウルリカ・リリエベリィ市長(中央の民族衣装の女性)から国際姉妹都市交流功労者に感謝状を授与(市長の左が宮司正毅町長)。



姉妹都市提携30周年記念モニュメントの除幕式。



レクサンド市の訪問団に当別音頭を披露。



「北欧の風 道の駅とうべつ」では夏至祭のシンボル「マイストング」を立ち上げました。

スウェーデンヒルズ開発から生まれた日瑞交流

レクサンド市は長年にわたる二国間の交流の歴史と功績が認められ、日本から外務大臣表彰を受賞しました(2017年6月)。リリエベリィ市長は多くの若者たちが交流し、お互いを理解しあう姉妹都市交流の必要性をスピーチで語られました。福祉や環境先進国であるスウェーデンから学ぶ高齢化社会問題、社会福祉制度の確立と維持、環境気候問題など、お互いに協力して問題解決に取り組むことを将来の姉妹都市事業として発展が期待されます。

スウェーデンヒルズは単なる土地開発ではなく、日瑞の交流を目的としたスウェーデン交流センターを街づくりに取り入れ、30年の時を経てグローバル化した世界に必要な両国の相互理解の場へと大きく成長しました。



スウェーデン交流センターを訪問。



当別神社を訪問したリリエベリィ市長一行。
男性は例大祭の装束で記念撮影。



北欧のような街並みスウェーデンヒルズを散策。



スウェーデンヒルズ内レクサンド公園にあるダーラhest(ダーラナ馬)を囲んで記念撮影。
このダーラhestは姉妹都市提携20周年記念にレクサンド市から寄贈されたもの。



トーモクヒュースAB社長
佐藤利典氏(写真左)

レクサンド市でスウェーデンハウスの部材供給会社として経済活動していますが、今回、文化活動や市民交流にも参加できて大変光栄です。当別町民の温かい歓迎と参加したレクサンド市民の情熱を強く感じました。普段、トーモクヒュースにおいてもレクサンド市民や学生から日本に関する相談ののったり、情報を提供したりしています。相談を受けることは地域から信頼されている証で、弊社がスウェーデンの会社として認められていると感じています。これからも両国の交流に少しでも貢献できればと思います。

トーモクヒュースAB経理部長
オッレ・デラス氏(写真右)



日本の書道にチャレンジしたオッレ・デラス氏。

「第1回当別スウェーデンマラソン」開催

2018年8月5日(日)、「第1回当別スウェーデンマラソン」がスウェーデンヒルズで開催され、千人を超えるランナーが参加しました。この大会は日本・スウェーデン外交関係樹立150周年を記念して初めて開催されたもので、姉妹都市提携30年を迎えたレクサンド市からもランナーを招き、一般ランナー、スウェーデンハウスオーナー様、関連会社、当社社員も参加し、スポーツを通して新たな結びつきが生まれました。

当社は特別協賛として大会運営に協力し、大会ゲストの高橋尚子さん(シドニーオリンピック金メダリスト)が、一緒に走りながらたくさんのランナーの方々とふれあい、マラソンの楽しみを伝えてくださいました。参加ランナーの皆さんは、青空のもと緑豊かな美しいスウェーデンヒルズやひまわり畑のコースなどを楽しみながらゴールを目指し、レース後は「当別うまいものフェスタ」で地元の美味しい食材を使った料理を堪能しました。



種目はハーフマラソン、ファンラン(3km)、参加資格は小学生以上、ハーフは高校生以上。



満開のひまわり畑を走るランナー。



スウェーデンヒルズのマラソンゲートをスタートするハーフマラソンの参加者。

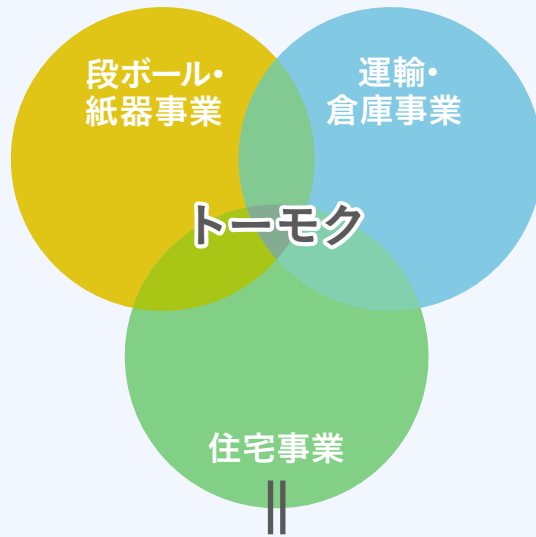


第2回も2,100人超がエントリーし大盛況

2019年8月4日(日)、第2回当別スウェーデンマラソンが開催されました。ハーフマラソンに1,700人、2.5キロのファンランに406人がエントリーし、第1回の約2倍のランナーがスウェーデンヒルズの街並みを快走しました。第2回のゲストは高橋尚子さんに加え、アナウンサーの小倉智昭さんが招かれました。



トーモク・グループの住宅事業の核となる「スウェーデンハウス」。



スウェーデンハウス リフォーム

スウェーデンハウスの100%出資会社で、スウェーデンハウスをはじめ、一般住宅、マンションのリフォーム、エクステリア施工を行っています。

北洋交易

スウェーデンハウスのインテリアや北欧デザインの快適設備をトータルコーディネートするホームデザイン事業とゴルフ場事業を柱とする総合商社。

プライムトラス

日本で初めて木質トラス専門メーカーとして設立。スウェーデンハウスの小屋組トラスを製造しています。

トーモクヒュース

日本の気候風土に適したスウェーデンハウスの住宅部材、木製サッシをスウェーデン、ダーラナ地方の現地工場で製造しています。

当社は株式会社トーモク(東証一部)のグループ会社として住宅事業の核となり、1984年から環境負荷の少ない住宅販売を行っています。高気密・高断熱の優れた性能で高い信頼を得ているスウェーデンハウスでは、住宅部材供給、販売、リフォームまで、住宅に関わる総合的なサービスをトーモク・グループと関連会社によってお客様に提供しています。長く、快適に暮らせる「資産価値」の続く住宅を日本に普及させる、という企業理念を各社が一体となって担い、質の高い製品とサービスをお届けしています。

スウェーデンハウス関連会社

スウェーデンハウスリフォーム株式会社	〒211-0063 神奈川県川崎市中原区小杉町1-403 武蔵小杉STMビル7F TEL:044-711-4158
北洋交易株式会社	〒211-0063 神奈川県川崎市中原区小杉町1-403 武蔵小杉STMビル7F TEL:044-711-4480
プライムトラス株式会社	〒135-0042 東京都江東区木場2-15-12 MAビル2F TEL:03-3643-3310

グループ会社

株式会社トーモク	〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-2-2 丸の内三井ビル4F TEL:03-3213-6811
トーンサービス株式会社	〒330-8541 埼玉県さいたま市大宮区土手町1-49-8 GM・大宮ビル TEL:048-647-3381
株式会社ホクヨー	〒101-0047 東京都千代田区内神田2-15-11 翔和神田ビル4F TEL:03-5298-5631
TOMOKU HUS AB (トーモクヒュース)	Box 60 S-793 12 Insjön Sweden TEL:+46-247-44000



会社概要 / 認定取得・表彰・受賞歴



会社概要

社名	スウェーデンハウス株式会社 (英文名: SWEDEN HOUSE Co., Ltd.)
本社	東京都世田谷区太子堂4-1-1キャロットタワー23F
設立	1984年3月1日
資本金	4億円
代表者	代表取締役社長 村井 秀壽 (2020年1月就任)
従業員数	808人 (2019年3月)
売上高	358億円 (2019年3月)
主な事業内容	1. スウェーデンより輸入する組立住宅の製造、販売 2. スウェーデンより輸入する組立住宅の設計、施工、監理 3. 不動産の売買、交換、または賃借の代理および媒介
事業所	【本社】 東京 【支社・支店】 北海道、東北、北関東、千葉、東京、横浜、名古屋、関西、九州 【営業所・事務所】 旭川、道東、釧路、道南、新潟、群馬、宇都宮、水戸、八王子、甲信、広島、大分
展示場	全国66カ所 (SPSを含む・2019年9月現在)
株主	株式会社トーモク 100%

認定取得・表彰・受賞歴

1986年	建築基準法38条システム認定取得
1992年	財団法人住宅・建築省エネルギー機構※1 気密評定取得 省エネルギー住宅賞 硝子繊維協会会長賞受賞
1993年	建設省(現・国土交通省)乙種防火戸認定取得 北海道まちづくり功労者知事表彰受賞(スウェーデンヒルズにて)
1995年	貿易表彰 内閣総理大臣表彰受賞
1997年	財団法人住宅・建築省エネルギー機構※1 省エネルギー住宅賞 建設大臣賞受賞
1999年	通商産業省(現・経済産業省)住宅・建築物高効率エネルギーシステム認定取得 財団法人住宅・建築省エネルギー機構※1 環境共生住宅認定取得
2000年	財団法人住宅・建築省エネルギー機構※1 次世代省エネルギー基準適合住宅評定取得
2001年	全事業所(マルチサイト)でISO14001の認証を取得(2016年7月29日をもって認証返上)
2002年	スウェーデン製材基準強度の大臣指定取得
2004年	地球温暖化防止活動 環境大臣表彰受賞
2007年	木質複合軸材料の認定取得
2008年	ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エレクトリック 2007大賞受賞
2011年	東日本大震災における応急仮設住宅建設の貢献に対し、国土交通省から感謝状を授与される
2014年	ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー 2013特別優秀賞受賞 2014年度グッドデザイン賞受賞(木製サッシ3層ガラス網無し防火窓)
2015年 } 2019年	2015・2016・2017・2018・2019年オリコン顧客満足度調査ハウスメーカー注文住宅 5年連続総合第1位受賞

**2015・2016・2017・2018・2019年 オリコン顧客満足度調査
ハウスメーカー 注文住宅
5年連続 総合第1位受賞**

消費者に本当に良いサービス・企業を紹介することを目的として、株式会社oricon MEが「オリコン顧客満足度ランキング」を発表しています。ハウスメーカー注文住宅では、2015年のランキング創設より5年連続でスウェーデンハウスが第1位の評価をいただきました。



※1 財団法人住宅・建築省エネルギー機構は、現：一般財団法人建築環境・省エネルギー機構